

つながる絆、伝わる音楽

6月9日(土)、城山体育館でロンドンメトロポリタンオーケストラと、世界中で活動している廣田丈自氏をはじめとしたゲストを招いて、コンサートが開催されました。このコンサートでは、オーケストラと和太鼓、尺八、横笛などの楽器が共演。その共演が生み出す音楽には、「私たちが震災を忘れていない。ともに頑張っていこう」という応援のメッセージが込められているようでした。またコンサートのほかにも、オーケストラと町内の中学校吹奏学部の交流会や、大槌虎舞との共演も行われました。交流会の終了後には中学生から、オーケストラメンバーとそのスタッフに感謝の思いを込めてメッセージカードを送りました。



笑顔あふれる世界の屋台村

6月23日(土)、世界の屋台村が開催され、会場となった城山体育館では多くの人々の笑顔を見ることができました。この屋台村には、近隣市町村のお店から、ベトナム、アフリカ、韓国など世界中の料理を堪能できる屋台が出店。また、料理だけでなくマジックショーやスライム作りコーナー、マッサージコーナーなども開設されました。訪れた人々を自慢の料理だけでなく様々な工夫でおもてなししていました。宮古から来た小学生はウイグルの料理を食べながら「お母さんの料理と違って少し辛いけどおいしい。」と言って、いつもより少し辛い味付けにヒーヒー言いながらも笑顔でほおぼっていました。



まちの話題あれこれ

練習の成果、今ここに

6月16日(土)、17日(日)地区中総体が行われ、各競技で日ごろの練習の成果を競い合いました。震災の影響で体育館やグラウンドが満足に使えず、決して良いとは言えない練習環境が続きますが、そんなことは微塵も感じさせない、澁刺としたプレーでした。また、応援の声が途切れる事なく会場に響き渡り、選手たちの背中を後押ししていました。どの競技でも試合の結果にかかわらず、生徒全員が輝いていました。これから大槌の中学生の活躍から目が離せなくなりそうです。



来て語って、見て思い出して

「懐かしいな、こんな店あったな。」そこに行くと震災前の大槌を、静かに思い出すことができます。おらが大槌復興食堂のとなりにある復興館には、大槌の街並みを映した写真や、大槌駅前周辺の模型など、たくさんの思い出が展示されています。この思い出たちは、大槌にボランティアに訪れた人や、新聞記者、また管理人の高田由貴子さん自らが集めたものです。高田さんは「ボランティアの人は私たちに元気を与えるために、楽しい行事を開催してくれる。それはもちろん必要だけど、震災前の大槌を静かに思い出したり、語ったりする時間も必要だと思う。思い出すのがつらい人は無理してこなくていい、来たい人だけ来てくれればそれで十分。そして、来たくても来れない人のために、様々な場所で定期的に開催したい。」と語りました。



ひよっこりひょうたん塾 開講

6月9日(土)にひよっこりひょうたん塾が開講しました。この塾は、おらが大槌夢広場が主催で町民、ボランティアの人が芸術・文化による大槌の復興を考える塾です。第1回目は長野県小布施町にある図書館「まちとしょてらす」の館長を務める、花井裕一郎さんの講演や、町内ガイドなどが行われました。この塾の事務局長を務める、安川雄基さんは「芸術文化というとなんとなく少しとっつきにくい感じがするが全然そんな事はありません。どうぞ気軽に参加して、実際に体験してみてください。参加した人が、楽しくそして、真剣に大槌の復興を考えられると思います。」と応じてくれました。今までとは、少し違った観点から大槌の復興を考えさせてくれる機会を与えてくれそうです。

